教育目標「考える子　思いやりのある子　たくましい子」

せんだんの木

伊勢崎市立茂呂小学校　学校だより No.11　令和８年９月２５日



全国学力・学習状況調査の結果について



４月に６年生を対象に実施した「令和８年度全国学力・学習状況調査（国語、算数、児童質問紙調査）」の結果が国から届き、６年生には１学期の終業式の日に自分の結果(個票)について返却をしました。その後、夏休み等を使い、良かったところや課題(対応策)について校内で分析を行いましたのでお知らせします。

なお、本調査は児童が身に付けるべき学力の一部であり、学校における教育活動の一側面を調査したものであることにご留意ください。

国語

本校は、全国平均正答率より高い結果となっています



【良かったところ】

全体的に、日々の授業や家庭学習での取り組みの成果が出ていると考えます。説明文等において、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができていることは、これまで文章を読んで考えたことを、自分の経験と結びつけてまとめて書く学習を継続してきたことが成果につながったと考えます。また、集めた情報から条件に合う内容を正確に抜き出し、文脈に合わせて書き表すようにしてきた成果が出ていると考えられます。今後も漢字練習や読書、新聞を使った読解などを続けることで基本的な知識・技能を高めながら、表現力も伸ばしていきます。

【課題と改善策】

話や文章の種類とその特徴を理解する問題について、全国平均よりやや低い結果になりました。文章を読み取る際に、文章全体の流れやまとまりを意識した読みの活動を取り入れていきたいと考えます。

算数

本校は、全国平均正答率より高い結果となっています



【良かったところ】

全体的に、日々の授業や家庭学習での取り組みの成果が出ていると考えます。算数の領域としては「図形」と「変化と関係」において、全国平均よりやや高い結果となりました。２つの領域で考えられることは、問題を解く際に、図形や数直線への書き込みを習慣づけてきたことです。図形については、面積や体積の公式を繰り返し確認し、ドリル等で繰り返し問題に取り組んだことや、具体物を操作したりＩＣＴを活用したりして立体図形の理解を深めたことが成果につながったと考えます。また、変化と関係の百分率で表された割合と比較量から基準量を求めることについては、位取りや四捨五入の意味を丁寧に確認し、定着を図ってきたことが成果につながったと考えます。今後も引き続き、基本的な計算練習にしっかり取り組ませたり、既習事項を使って課題解決をしたりしながら、達成感を味わえる授業づくりを意識して取り組んでいきます。

【課題と改善策】

分数に関係する問題として、異分母の分数の大小を判断し理由を数や言葉を用いて記述し

↓　次ページ

たり、単位分数の個数に着目して数直線上の１を表す目盛りを捉えたりする問題、また、データの活用に関係する問題として、簡単な二次元の表から条件に合う数を読み取る問題は、正答率がやや低い結果となりました。授業では、単位分数に着目させ、図や数直線で大きさの違いを視覚的にとらえさせる活動を取り入れていきたいと思います。また、身近で児童の興味ある題材を使い、条件をもとに表に表す活動や表から読み取るなどの活動を取り入れていきたいと思います。

児童質問紙

思いやりや規範意識、学習へ向かう姿勢等は確実に身に付いています



【「自己肯定感・自己有用感」に関して】

「自分にはよいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか」という質問項目は、今回も全国と比べて肯定的な回答が多くなっています。本校では、各学級の係活動や当番活動、委員会活動、クラブ活動、たてわり活動（わくわく集会）といった特別活動を大切にしており、その成果と言えます。今後も、「自分たちの学校は、自分たちでよりよくする」といった意識を高め、自分から行動できる子供たちを育てていきます。

【「相談しやすい雰囲気作り」に関して】

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問項目では、全国と比べて今回も肯定的な回答が多くなっています。毎月、なかよしアンケートを実施し、日頃から先生に話しやすく聞きやすい雰囲気づくりを積み上げている成果と考えます。今後も、子どもの気持ちを受け止め、話しやすさや聞きやすさのある雰囲気づくりや子供たちへの声かけに努め、温かな学級・学校作りを一層進めていきます。

【「子供たちの学び」と「ＩＣＴ機器の活用」に関して】

５年生までに受けた授業では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「学習内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問項目でも、全国に比べて肯定的な回答が多くなっています。

また、５年生までの学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用することについて、日々の使用状況をはじめ「文章を作成できる」「情報を収集・整理できる」「プレゼンテーションを作成できる」といった質問項目で、全国に比べて肯定的な回答が多くなっています。

各教科等の授業で、「学び合い」を取り入れた学習活動となるような授業を展開する中で、タブレット端末を有効に、積極的に活用してきたためと思われます。今後も子供たちが主体的に学習に取り組めるような授業づくりを進めていきます。

【「家庭学習の量と質」に関して】

平日や休日に、家庭での学習が「２時間以上、３時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」と回答した割合が、全国に比べて多くなっています。宿題だけではなく、自分で考えた学習に取り組むチャレンジノート等に取り組んできた成果と考えます。

今回も「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」という質問に肯定的回答が多いので、引き続き、チャレンジノート等の家庭学習の取組を充実させていきます。

